

平成 22 年度 境高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長が、学校（単位制）や生徒の実態をよく把握して、それにそった教育ビジョンを持ち、学校運営を行っている。特に進路指導が充実しており、教職員集団からは、進路指導の熱意と生徒への愛情を感じた。また、生徒の学力を向上させたいという思いから様々な取組が実施され、各取組について教職員の共通理解がある。特に、課外講習や早朝・放課後の学習時間を確保するなど教育環境の整備に努めている点は高く評価できる。総合的な人間教育も充実しており、隣接の小学校児童との交流は、他の学校に誇れる事業である。

一方で、教師が生徒の学力向上のために生徒のアンケート結果を有効に活用したり、授業改善を積極的に行ってほしい。教師同士が生徒の様々な情報を共有し、それを授業や進路指導に活用すれば、さらに生徒の力量は向上すると思われる。また、各分掌の日常の仕事に対する規定類と各々の手順書が必ずしもリンクしていないことは課題であり、5W1Hに配慮した文書化と責任権限表も合わせて作成する必要があると感じた。

以下は、委員会として高く評価し、今後も継続・発展していただきたい事項である。

- ① 教育目標に数値目標を掲げ、具体的に活動出来るように配慮されている。
- ② 学校長が全教職員に学校・生徒の実態にそった学校教育ビジョンを明確に示し、教職員とのキャッチボールがうまく出来つつある事が窺える。
- ③ 年間を通して小学校児童との交流をするなど特色を作っている。
- ④ 命の大切さの指導や学校保健についての計画、実施体制が確立しており、生徒の健康状況が良好である。
- ⑤ 生徒指導において、校内全体で取り組む姿勢や体制が出来ている。
- ⑥ 生徒や保護者を対象としたアンケートを実施し、現状を素直に把握しようという姿勢がある。

また、以下は、委員会として課題と捉え、今後さらなる改善を期待したい事項である。

- ① 生徒の学力向上には教師の授業改善などで授業力アップが不可欠であるが、研究授業の実施や教員同士が互いに授業を見合う機会が少ない。
- ② 生徒のアンケート等の結果分析、対応策が不十分である。
- ③ 図書の仕事に関して、PDCAがはっきり分かる年間事業計画書がない。
- ④ 文書管理について、口頭での説明が多く、仕事の基本となる規定類や手順書についての旧文書と最新版文書の区分け、分掌ごとの文書であることの区分け、改訂・追記による記録等を明確にするために採番の管理ができていない。
- ⑤ 設備の点検が目視なのか器具を使用しての良否判断が分かりにくい。
- ⑥ 教育委員会との連携を密にしてほしい。

これらを解決していくには、教職員の意識改革が必要であると考えます。また、学力向上と心の教育とは両輪であるので、現状に満足せず、今後も両者をリンクさせ、一層充実した指導がなされ、生徒の人間力を伸ばしていくことが望まれる。しかし、教職員は生徒を熱心に指導するあまり、超過勤務の状態になっているのではないかと心配である。教職員の時間外勤務の管理について、早急な改善をお願いしたい。